

無痛分娩看護マニュアル

2025 年 3 月 31 日

1. 目的

1. 産痛を緩和することで、筋肉の緊張をとり、分娩時の母体にかかる負担や苦痛を最小限にする。
2. 無痛分娩希望者および必要者に寄り添い、満足のいく分娩を援助する。
3. 分娩進行をスムーズにする。
4. 脊椎くも膜下麻酔・硬膜外麻酔による合併症、薬液による副作用の早期発見、安全な無痛分娩を実施できるようにする。

2. 必要物品

共通

- ステリクロン B エタノール液 1%もしくはポビドンヨード消毒液 10%
- キシロカイン®注シリンジ 1%10 ml
- 生食 20 ml(透明のカップに入れる)
- 滅菌手袋
- 持続自動血圧計・心電図モニター、パルスオキシメーター
- バイオハザード
- 輸液セット・三方活栓 2 個・延長チューブ・輸液ポンプ
- キャップ・マスク(実施者・介助者)
- 麻薬注射箋・麻薬施用表・点滴指示伝票

硬膜外麻酔

- ペンシル P キット
- PIEB ユニット
- 0.2%アナペイン 10 ml × 2A
- フェンタニル 1A(1 ml)
- 生理食塩水 28 ml

脊椎くも膜下麻酔

- 硬脊麻酔用(ペンシル P)キット

- 1 ml シリンジ
- フェンタニル-0.5% 高比重マーカイン
- 2.5 ml (黄色) シリンジ (フェンタニルの残液用)、18G 注射針

3. 方法

1. 朝 7 時に LDR へ移動、無痛分娩の流れの確認と必要時説明を行う。
2. CTG モニターを装着し、分娩誘発前の胎児心拍と子宮収縮を確認する。
3. ルートキープ: 18G もしくは 20G で補液をメインルートにし、誘発剤入り補液を側管にする。
4. 全身状態の観察:
 - 心電図モニターを装着
 - 点滴のない上肢に自動血圧計、点滴のある指に SpO2 モニターを装着
 - セントラルモニターで経時的に観察

4. 全身状態の観察

- 使用薬剤:
 - 硬膜外麻酔: 0.2% アナペイン 10 ml × 2A、フェンタニル 1A、生食 28 ml
 - 脊髄くも膜下麻酔: 0.5% マーカイン 0.5 ml、フェンタニル 0.5 ml、生理食塩水 1.5 ml

① 麻酔使用直後～30 分まで

- SpO2・心拍数・血圧: 2～2.5 分毎

② 麻酔使用 30 分後

- SpO2・心拍数・血圧: 10～15 分毎、必要に応じて頻回計測
- 鎮痛評価 (NRS)
- 運動神経ブロック (Bromage スケール)
- 感覚神経ブロック (コールドテスト)

③ 以降持続薬投与中

- SpO2・心拍数・血圧: 15 分毎
- 鎮痛評価 (NRS): 1～2 時間毎

- 運動神経ブロック(Bromage スケール):1 時間毎
- 感覚神経ブロック(コールドテスト):1～2 時間毎

5. 麻酔実施手順

硬膜外麻酔編

1. 麻酔開始のタイミングを麻酔担当医へ確認する。
2. PIEB ユニットの準備を行い、薬局から受け取ったアナペイン、フェンタニル、生食の 50 ml シリンジをセットする。
3. 側臥位で体位を保持し、挿入部位(L3/4 または L2/3)を消毒後、硬膜外カテーテルを挿入する。
4. カテーテルを固定し、麻酔レベルをアルコール綿で冷感減弱を確認する。

脊椎くも膜下麻酔編

1. LDR で患者の状態を確認後、必要時説明を行う。
2. 体位を保持し、消毒後、硬脊麻酔用ペンシル P キットを使用して脊椎くも膜下麻酔を実施。
3. 使用薬剤は 0.5%マーカイン 0.5 ml、フェンタニル 0.5 ml、生理食塩水 1.5 ml。
4. 挿入後、感覚神経ブロック(コールドテスト)で麻酔レベルを確認する。

6. 分娩時の対応

1. 分娩誘発の確認と開始。
2. 硬膜外麻酔または脊椎くも膜下麻酔の効果と副作用のチェック。
3. 2 時間ごとに効果と副作用の確認を行う。
4. 必要に応じて導尿を 2～3 時間ごとに行う。

7. 分娩後の管理

1. 胎児娩出後に持続硬膜外注入を終了する。
2. カテーテル抜去後、運動障害や知覚障害が消失していることを確認する。
3. 抜去時は消毒とオプサイトでの保護を行う。
4. 麻酔終了後も改善が見られない場合は速やかに報告する。

8. 清潔・安静・記録

- カテーテル挿入中は下半身シャワー浴のみ。

- カテーテル抜去後は 6 時間後にシャワー可。
- 記録はパルトグラムへ詳細に記載し、バイタルの測定値を印刷し添付する。

9. 注意事項

- 食事はアルジネードウォーターで管理。
- アロマの使用は原則禁止(柑橘系のみ可)。
- カイロやアンカの使用も禁止。
- 仰臥位は避け、側臥位を基本とする。

レスキュードーズ使用時の注意

- テストドーズの使用に準ずる。
- 15 分後に効果を評価。
- 詳細は医師無痛分娩マニュアル参照。

10. 局所麻酔中毒への対応

- 日本麻酔科学会のプラクティカルガイドに基づく。
https://anesth.or.jp/files/pdf/practical_localanesthesia.pdf